

第1回 軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ

日時	令和7年（2025）3月7日（金） 午後2時から午後5時45分まで			
会場	長野県軽井沢町くっかけテラス中軽井沢図書館2階多目的室			
出席 （敬称略） ◎座長 ○副座長）	◎荒井 英治郎 福本 理恵 岡田 敏之 本城 慎之介 諸星 ひとみ	○三和 秀平 飯澤 幸世 小池 徳男（代理） 上原 浩子 岩崎 ひとみ	木村 泰子 今村 久美 臼井 学（代理） 山崎 伸一	西郷 孝彦 西野 博之 召田 誠（代理） 久保 貴史
欠席（敬称略）	本田 秀夫	傍聴者	15人	
事務局	宮本 隆 教育長 内堀 繁利 教育推進アドバイザー 岩井 和成 課長 金井 章宏 課長補佐 金井 拓也 係長 学校教育係 職員 小林 真理 堀本 淳子			
議題	（1）国（文部科学省）・県（教育委員会）・町の経過説明 （2）今後のスケジュールについて （3）スクールコンセプトについて （4）アンケートについて （5）その他			
当日資料	次第、委員名簿、設置準備会議要綱、軽井沢町の教育環境について、 教育施設（連携7校）位置図、教育一貫独自プログラム、軽井沢町の経過説明、 設置準備会議等スケジュール（案）、スクールコンセプト（イメージ）、 アンケート（案）（学びの多様化学校）、アンケート（案）（夜間中学）			
主な内容（意見、質問等）				
会議次第について 1. 開会 2. 教育長挨拶 3. 自己紹介 4. 座長及び副座長の選任 5. 軽井沢町の教育環境について 資料「軽井沢町の教育環境について」及び「教育施設（連携7校）位置図」、「教育一貫独自プログラム」の とおり説明 6. 議題 （1）国の経過説明 ○学びの多様化学校の説明（文部科学省初等中等教育局児童生徒課担当者説明） 【質問】・学びの多様化学校を義務教育学校としてやっている事例はあるか。 ・中学校だけの設置と、小中一貫での設置で、子どもの姿に違いはあるか。 ・国の予算について、予算の使い道、算出の根拠等。 ・本校型、分校型、分教室型において、人員配置や定数などどのような違いがあるか。 ・特別な教育課程の編成における、教科学習の最低必要時間数等の規定はあるか。 ・特別な教育課程で社会性を育む活動として地域に出る場合に、特別免許証は必要か。 ・学びの多様化学校における生徒の評価方法に基準やきまりはあるか。 ・オンラインでの出席を出席扱いとしている学びの多様化学校の事例はあるか。 オンライン登校と実際の登校の優先度はどのように考えているか。 ・設置形態で、同じ学校種の敷地内には設置できない規定があるが、なぜか。 また、義務教育学校を設置する場合、設置基準はどのように考えるか。 ○夜間中学の説明（文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課担当者説明） 【質問】・夜間中学では教員免許が必要か。 ・小学校免許保有者の授業実施は可能か。 ・特別な教育課程を編成する際に、新たな教科を作ることは可能か。 ・外国籍の子どもが希望した場合に、母語で学ぶことは可能か。 ・学び直しの学習範囲や集団学習と個別学習の割合はどのように決めていくのか。 ・義務教育課程の子どもが夜間中学に通うことは可能か。 ・外国で義務教育を受けた子どもが夜間中学へ通学することは可能か。 ・夜間中学においてタブレット学習は導入されているか。また今後促進はしていくか。 ・夜間中学へスクールカウンセラーは配置されるか。 ・学びの多様化学校と夜間中学を同時設置する場合に補助金の取扱いはどうなるか。				

(1) 県の経過説明

○信州オープンドアスクールの説明（長野県教育委員会事務局担当者説明）

【質問】・設置基準を満たした建物がない場合、新設が必要か、既存施設の改築等で対応可能か。

- ・分校型における、兼務職員の勤務時間等はどうなるか。
- ・学習指導要領と特別な教育課程の割合はどのように決定していくのか。

【意見】・教員配置の加配について、配慮した加配をお願いしたい。

- ・教育課程の申請について、県教委のサポートをお願いしたい。
- ・学びの多様化学校へ、隣接市町村からも通学ができるよう支援等をお願いしたい。

(1) 町の経過説明

○軽井沢町の経過を説明（こども教育課長説明）

(2) 今後のスケジュールについて

○本会議の今後のスケジュールについて説明（軽井沢高校・教育魅力化推進係長説明）

【意見】・今後のスケジュールについて、なるべく早く調整いただきたい。

(3) スクールコンセプトについて

○スクールコンセプトについて説明（教育長説明）

【質問】・近隣市町村の生徒受入の予定やスクールバス運行範囲はどのように考えているか。

【意見】・高校進学まで検討いただきたい。

- ・学校とは別に居場所づくりをし、学びの多様化学校に通いつつ居場所に通い、多様化学校卒業後は居場所に通いつつ高校に通信で通うという事例がある。
- ・神奈川県で、高校入試のあり方についての議論され、学びの多様化学校卒業生徒が不利にならない入試制度の検討がなされた事例がある。
- ・設置形態について、義務教育学校として設置してはどうか。
- ・分校型での職員兼務についての懸念があるため、単独校として設置してはどうか。

(4) アンケートについて

○アンケートの実施内容、設問について説明（教育長説明）

【意見】・シンプルな設問のほうが良いのではないか。

- ・学校にあればよいものだけではなく、今の学校にあるがいないものについての設問も追加してはどうか。
- ・夜間中学のアンケートについて、ルビを振ったほうが良いのではないか。
- ・夜間中学のアンケートについて、まずはニーズ把握をする必要があるのではないか。また、アウトリーチ的に実施する必要があるのではないか。
- ・学びの多様化学校のアンケートについて、不登校生徒に届けるのが重要ではないか。
- ・アンケート実施にあたり、教員への研修が必要ではないか。
- ・本アンケートにより、軽井沢オープンドアスクールのイメージが形成されてしまうのではないか。
- ・映像等を活用した町民向け説明会の実施が必要ではないか。
- ・不登校の生徒向けイベントを行う際、届かない層が一定数いる。届かない層が一番支援を必要としている層である。保護者や支援していただいている方から、アンケートについて説明いただくと良いのではないか。
- ・学校へ通っている子どもと不登校の子どもで意見を分けて把握する必要があるのではないか。
- ・保護者向けの設問において、支援の方法等の設問を追加してはどうか。
- ・オープンドアスクールを設置する本来の目的を明確に確認すべき。
- ・このアンケートで出された意見は、公立学校も改善する必要のあることだという意識を持つべき。
- ・今の聞き方では、子どもたちは当事者意識をもって回答しないのではないか。当事者意識を持って回答いただけるよう、内容を検討する必要がある。
- ・発達障害や不登校生徒など、実際に通う児童生徒の声を聴くことが重要である。
- ・親の会の活用や、支援者、近隣市町村から意見を聴取する必要があるのではないか。
- ・夜間中学のアンケートで、通うことの不安についての設問を追加したらどうか。また、卒業後の願いについても選択式等で聞いてはどうか。
- ・アンケート内容自体を、自分たちの学校はどんな学校が良いかという内容に変更してはどうか。
- ・誰を対象にアンケートを行うのか、再度検討いただきたい。
- ・チラシを作成するなどオープンドアスクールについて詳しい説明をする必要があるのではないか。

(5) その他

○事務局からの事務説明。

- ・次回開催日は5月22日となる